

米 社 福 第 1 5 7 3 号
令和3年(2021年)11月26日

市民とともにつくる非核・平和米原市民会議
座 長 渡 邊 暁 彦 様

米 原 市 長 平 尾 道 雄

諮 問 書

幾多の尊い命が奪われ、深い悲しみをもたらし、今も人々の中で癒えることのない深い傷として残る戦争の終戦から76年の歳月が経過しました。

戦争体験者の高齢化が刻一刻と進み、犠牲となられた方からの恒久平和を求める声なき声を伝えるべき人が失われ、世代交代とともに戦争の記憶が忘れ去られようとしています。

これからは、戦争を体験していない私たちの世代が「戦争の悲惨さ」、「核兵器の恐怖」、そして「平和の大切さ」を伝えていかなければなりません。

私は、今年の8月に開催された米原市平和祈念式典の中で、戦争の惨禍を二度と繰り返さないために、非核、平和の大切さを広く伝え、戦没者、戦争犠牲者への追悼の意を表する祈念碑について、遺族会をはじめ関係団体の皆様と連携して具体的な協議を進めることを申し上げました。

私たち米原市民が、過去への追悼と将来に向けての平和への祈念とする歩みを進めていくためにどのような取組が必要なのか、その議論をお願いし、令和4年8月までに御提言いただきたく、下記のとおり諮問します。

記

- (1) 市内に点在する忠魂碑の現状および課題に関すること。
- (2) 戦没者および戦争犠牲者への哀悼や新たな顕彰のかたちに関すること。
- (3) 市全体の平和の象徴として、非核・平和を祈念するモニュメントの建立に関すること。